

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 1 区分

【発行日】令和 3 年 3 月 18 日 (2021.3.18)

【公開番号】特開 2019-210894 (P2019-210894A)

【公開日】令和 1 年 12 月 12 日 (2019.12.12)

【年通号数】公開・登録公報 2019-050

【出願番号】特願 2018-109285 (P2018-109285)

【国際特許分類】

F 0 2 M 35/10 (2006.01)

F 0 2 M 35/024 (2006.01)

F 0 2 M 35/16 (2006.01)

B 6 2 M 7/02 (2006.01)

B 6 2 J 40/00 (2020.01)

【 F I 】

F 0 2 M 35/10 3 0 1 V

F 0 2 M 35/024 5 1 1 C

F 0 2 M 35/16 L

F 0 2 M 35/16 M

F 0 2 M 35/10 1 0 1 L

F 0 2 M 35/10 1 0 1 D

F 0 2 M 35/10 3 0 1 J

B 6 2 M 7/02 W

B 6 2 J 99/00 G

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 2 月 4 日 (2021.2.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 0 】

吸気ダクト 5 2 は、ダクト前部 5 6、ダクト中間部 5 8 およびダクト後部 6 0 により構成されている。ダクト前部 5 6 は、ヘッドパイプ 4 およびフロントフォーク 1 6 の前方に配置されている。ダクト中間部 5 8 は、ダクト前部 5 6 からフロントフォーク 1 6 およびメインフレーム 1 の車幅方向外側を後方に延びる。ダクト後部 6 0 は、ダクト中間部 5 8 から車幅方向内側に湾曲してエアクリーナ 2 5 に接続される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 1 】

ダクト前部 5 6 は、前端の入口 5 2 a から後方に向かって車幅方向一側方（本実施形態では左側）に湾曲している。詳細には、ダクト前部 5 6 の前端の入口 5 2 a は、ヘッドパイプ 4 の前方に位置し、その軸心が、平面視で車幅方向中心線 C 1 と一致する。ダクト前部 5 6 は、入口 5 2 a から後方に向かって左側に湾曲し、ヘッドランプ 3 6 の後方でフロントフォーク 1 6 の前方を通過する。ダクト前部 5 6 は、フロントフォーク 1 6 の車幅方向外側（左側）の位置まで湾曲する。詳細には、ダクト前部 5 6 は、フロントフォーク 1

6 が回転する範囲よりも車幅方向外側の位置まで湾曲する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

ダクト中間部 58 は、フロントフォーク 16 およびメインフレーム 1 の外側方（左側方）を後方に向かって真直に延びる部分である。このダクト中間部 58 では、通路面積が下流（後方）に向かって徐々に狭くなっている。これにより、下流に向かって徐々に空気の流速が大きくなるので、空気がエアクリーナ 25 に効率よく流入する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0047】

図 7 に示すように、ダクト中間部 58 の横断面形状は上下方向に長い矩形 R1 であり、ダクト後部 60 の出口の横断面形状は円形 R2 である。必要に応じて、ダクト中間部 58 およびダクト後部 60 の底面に水抜き孔を設けてもよい。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0051

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0051】

さらに、図 3 に示すように、ダクト中間部 58 の第 1 支持部 68 が、メータステー 40 の第 1 ダクト取付片 45 にボルト 78 により取り付けられている。ボルト 78 が、ダクト中間部 58 の第 1 支持部 68 のボルト挿通孔 68a に車幅方向外側（左側）から挿通され、第 1 ダクト取付片 45 のねじ孔 45a に締め付けられている。これにより、ダクト中間部 58 がメータステー 40 を介して車体フレーム FR に固定される。以上により、吸気ダクト 52 が車体フレーム FR に支持されている。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0056】

ヘッドパイプ 4 と一体に大形のヘッドブロックを設けてこのヘッドブロック内に吸気通路を形成した車両もあるが、本実施形態の車体フレーム FR は鋼製なので、ヘッドブロックを設けると高重量になる。上記構成によれば、ダクト中間部 58 がフロントフォーク 16 およびメインフレーム 1 の車幅方向外側を後方に延びているので、鋼製のパイプフレーム型の車両にも吸気ダクト 52 を設けやすい。